

2018 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

Country/Region [Republic of Ghana]

School [Shakafatu Islamic JHS] Teacher [Toyama Hiroki] Grade (3) Member (23)

JP school [Yokohama Honjuku JHS] Teacher [Noguchi Masashi]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	ICT	隊員として派遣されている要請内容(活動における指導科目)がICTであるため。	6
	Music and Dance	カリキュラムには定められているが、実際は空きコマとして有効活用されていない教科の時間を毎週2コマ分いただき、アートマイルに関する時間として使った。	34
	Extra Lesson	他の活動との兼ね合いがあり、十分に絵を描く時間を設けることができなかったため課外(放課後や土曜日)に生徒を収集し行った。	

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Culture (Unity and Relationship)
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	たとえ文化が違う、時差があっても、手と手を取り合い仲良く、関わり合いながら生きていこう。
	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 日本の生徒と初めて Skype 交流する際に子どもたちから、「“Ohayou”か“Konbanha”どちらが好ましいの？」という質問を受けた。これは事前学習における日本語の挨拶だけではなく、「時差」の学習を踏まえ相手の立場に立って考えている発言であり、異文化理解の心情が芽生え始めていると実感できた発言であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 一時的には協力してくれた教員もいたものの、現地教員と協力しながら実施できなかった点は課題である。特に9月から新年度となるため、申し込み段階において協力的だった先生が新年度から異動してしまったことが一因ではある。 自身の隊員としての他の活動との兼ね合いで絵を描くのが遅れ、結果としてスムーズに日本側に届いたものの、発想が3月を過ぎてからになってしまった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ガーナと日本で違いは多くあるが、共に協力しながら生きていこうという心情が芽生えた。 相手の立場に立って考えることができた点。 	<ul style="list-style-type: none"> ガーナ文化だけではなく、自文化である日本文化に関しても子どもたちの新しい視座からの発言によって考えさせられ、気づきが生まれた点。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	・プログラム概要の共有 ・自己紹介カードの作成	・楽しみながらカードを作成していた。 ・Skype 交流に向けて「人にもものを伝える」にはどうしたら効果的で伝わりやすいかを考えていた。	Music & Dance (M&D)
共有 テーマ学習	10月 11月	・1回目の Skype 交流 ・ガーナ文化に関するプレゼンテーションの準備・動画の撮影	・Skype 交流の際、人に伝わりやすいように意識した自己紹介になっていた。 ・日本文化を学び、日本に対してより興味・関心をもつようになった。	ICT, M&D
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	11月 12月	・第2回 Skype 交流 ・学びや思いの言語化 ・壁画デザインの作成	・両国の文化における違いや共通点を見つける日本に関してさらに親しみを感じている印象であった。	ICT, M&D
創造 壁画制作	1月～ 3月	・描き方の指導 ・下書きの作成 ・色付け	・日本の絵の大きさに驚きながらも、より良い作品になるように奮闘している様子があった。	M&D Extra
評価 振り返り 自己評価	3月	・半年間の学習の振り返り ・7月(プログラム実施前)に行った独自の事前アンケートと同形式の事後アンケートの実施	・日本を入り口に世界に目を向けた り、日本に興味をもっている生徒が増えた。	M&D

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてついていた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	5	・プレゼンテーションの準備や発表場面 →どのように伝えると初めて聞く人に伝わりやすいかを考えている場面が多々見受けられた。
異文化を理解する力	5	・彼らの表情や独自にとったアンケートから養われていると感じた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	3	・インターネット環境や情報収集する時間も限られていたため、まとめ・発信することは評価できるが収集はできなかったため。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	5	・自己紹介の際に「伝える」ことを意識しようとしていた場面から。 ・Skype 交流や文化の共有・学習場面から。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	5	・両国の文化を比較し、共通点や課題点を見つけようとしていた場面から。
主体的に考え行動する力	4	・グループごとにプレゼンテーションを作成し、発表する場面や日本文化を学習し、友と違いや共通点を整理しようとしている場面から。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	・Skype 交流や手紙交換の場面から。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	・違いや共通点を見つけたり、そこからメッセージを紡ぎだしていく場面から。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	・半年に渡る学習によって、遠い国・日本から、距離的には遠いがどこか近く親しい国日本になっている(アートマイルプログラムやそれに付随し他の隊員を招き日本文化のワークショップを実施し、挨拶や文化等に触れる機会を何回も設けたため)印象を受けた。(例:挨拶や日本の食事や文化を覚え、積極的に質問してくる様子から)